



↑石川先生の図画工作の授業の様子。今日は図工室で切り絵を作ります。切ること、貼ること、配置を考えると、どれもみんな楽しい作業だな（神宝小学校）

（1面から続く）  
とはあります。

○加藤 トレーニングを  
続けていけば、ある程度、  
伸びる部分はあります。

授業中、課題を前にして  
ずっと固まっている子が  
いる場合は、ヒントになる  
ように、「何も浮かばなければ  
この本を見たらいっつか  
と声をかけたり、手を添え  
て一緒に描いたりなど、苦  
手な子がステップアップで  
きるようなことを、個々に  
合わせてやっています。

○小柳津 みんなが意欲  
を高めていると感じるの  
は、生徒同士で学び合いと  
いうか、教え合いをしてい  
る時だと思えます。

「パートナーの子と  
一緒に練習してみようね」  
とか、リーダーになれそ  
うな子に「あの子は不安そ  
うに思っているみたいだから  
何か手助けしてほしい」と  
言うと、生徒同士でその子  
を少しも上達させようとい  
う協力体制が見られるの  
で、そういった環境をつ  
くるようにしています。

○田村 今年の3月のお  
昼の校内放送の時に、「ほ  
くのがんばったこと」とい  
うタイトルで、児童の作文

が放送されました。「ほく  
は音楽があまり好きではあ  
りませんでした」から始ま  
ったので「えっ」とびっく  
りしましたが、「歌っている  
時に田村先生から、「声が出  
伸びて響いていたね」と言  
われたのがうれしくて、音  
楽が好きになった」という  
ものでした。声をかけきつ  
かけに音楽が好きになって  
くれたんだと、とてもうれ  
しくなりました。

○司会 「つまづ」「上手」  
という表現以上に、子ども  
にとっては具体的に非常  
心に響く言葉だったからこ  
そ、先生が見えていてくれ  
たということが伝わった  
んですね。

○石川 小学校高学年に  
なると、自分は絵が苦手だ  
と感じる子が出てきます。  
友達の作品と比べて、自  
分が最初に持ったイメージ  
と実際に描いたものが離れ  
てしまったことも原因の一  
つだと思えます。

しかし、一生懸命描いた  
絵は何かしら見る者に訴え  
るものがあり、どこかに必  
ず良さがあるので、そうい  
ったものを教師の言葉で気  
づかせたり、友達にも認め  
させてあげようと思いま

す。子どもには、絵に上手  
下手はないということも一  
番感じてもらいたいし、表  
現の方法にはいろいろな描  
き方があるということも体  
験させたいと思います。

### 専科の評価は どういう考え 方で行われて いるのか

楽しいけれど  
評価も気になります

○宍戸 小学校の授業で  
は授業を楽しんでいると思わせる  
内容にしたり、声かけによ  
うにうれしく思ってもら  
うことが大切になります。

しかし、中学校になら  
ると、「評価」という壁が出て  
きて、受験につながって  
いくことが現実としてありま  
す。今までのように純粋に  
楽しかっただけではなくな  
る。自分では楽しいと思っ  
てやっても成績では反  
映されなかったり、その逆  
もあるでしょう。

○小柳津 評価はかなり  
明確にしなければなら  
ないと思うので、到達目標を  
つきり提示することを心掛  
けています。実技面で多少  
不安が多々でも、それ以外  
の部分で得意なところを発  
揮する子もいます。いろい  
ろなチャンスを与えて、少  
しでも得意だと思つたところ  
を伸ばしていけるように意  
欲を高めさせようと思いま  
してはいます。

○司会 授業の中では、  
どちらかというと感想を書  
くことが中心となる、「鑑  
賞」についてはどう取り組  
まれていますか。実技が苦

手でも「鑑賞する力」があ  
る子もいると思えますが、  
具体的には書いたものがど  
のように評価されるのでし  
ょうか。

○加藤 美術では表現た  
けでなく、「絵を見てどう  
感じるか」を言葉に表すこ  
とも多々あります。描くこ  
とは苦手でも、絵を見て語  
彙（ごい）が豊富に溢れて  
くる子の場合は、鑑賞の点  
数は高くなります。美術の  
評価では、描いたり、作っ  
たりという才能で決めてい  
ると思われがちですが、感  
想や定期テストの点数や関  
心・意欲・態度などの評価  
項目で成績を付けます。

○小柳津 「鑑賞」では  
「楽しい曲だった」という  
感想で終わらず、「音色やリ  
ズムに注目して聴いてみよ  
う」と、焦点化させて聞かせ  
たりすることが多いです。

小柳津 智子（おやいづ さとこ）市立西中学校・主任  
教諭 平成26・27年度市の特別活動研究推進校の指定を受  
け、研究推進委員を務める。話し合い活動を通して生徒の  
コミュニケーション能力の育成を研究。平成28・29年度は  
東京都及び市の道徳研究の指定を受け研究推進委員とな  
り、生徒の道徳性の発達についてシレンマ教材を用いて指  
導案づくりに取り組む。平成29年度東京都教育研究員とし  
て「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善」  
をテーマに、音楽の指導方法などの実践的研究を行う。



↑子どもたちを楽し  
く迎える音楽室で、田  
村先生の授業が始ま  
ります（第一小学校）



宍戸 敏和（しじど としかず）教育委員会指導室長  
小学校学級担任だけでなく、心身障害学級（現知的障害  
特別支援学級）担任や海外日本人学校、指導主事・統括指  
導主事、小学校副校長・校長を経験して、現職。専門教科  
として体育を中心に、地区の研究を推進してきた。低学年  
担任時代は、音楽や図画工作の指導に苦勞しながら、子  
どもたちの自己表現が活かされる場面を多く取り入れ、指導  
に当たった。校長時代は、音楽・図画工作の授業に特化し  
た「教科の授業地区公開講座」を推進した。

加藤先生  
が言われた  
「トレーニング」が関  
係してい  
て、1年生  
の時から鑑  
賞の基礎を  
たたき込む  
というのか、「こうい  
うところに注目して聞くとこんな  
風に聞こえてくるよ」と体  
感させながら国語科とも連  
携して、言葉をいろいろな  
見えさせていくことを重視し  
ています。

○宍戸 言語能力はこの  
分野でもかわってきますね  
。小柳津 実技テストの  
場合でも、単に技能だけで点  
を付けることはありません。  
歌であれば表現する上で  
どこを重視したのか。歌  
詞のこの部分が盛り上がる  
ように音を大きくしたりなど  
の工夫があれば、「きちんと  
音と歌詞の様子とをリン  
クさせて表現した」と評価  
できます。少し音が外れて  
いたり、声がか細いとかい  
うことは、また別の評価項  
目になります。

○小柳津 「鑑賞」では  
入ることもあります。低学  
年でも鑑賞はありますが、  
美術作品のモチーフや製作  
者の意図は分からなくて  
も、低学年なりに楽しさや

美しさを感じ取って、まる  
で絵の中の世界で遊ぶよ  
うな鑑賞もあります。

○宍戸 音楽の授業では  
一人ひとりの声が出き  
たりする活動と「鑑賞」は  
一体化していると言われ  
ています。

曲を聞いて「はずんだ感  
じで始まり、途中から滑  
らかに変わった」感じを聴き  
取るだけではなく、自分が  
歌ったり演奏したりする活  
動に生かしていきけるよう  
に「鑑賞」を扱っています。

○石川 図工には「造形  
遊び」があって、6年生の  
授業まで「遊び」という名  
前がついているくらいで  
す。作品作りが目的ではな  
く、材料や友達と関わり合  
いながら、やりたいことや  
試してみたいことを体を使  
って活動することで、例え  
ば新聞紙をたくさん持って  
きて服に巻き付いたり、家  
を作ったりします。材料か  
ら発想して何かを作った  
り、友達の作品を見て刺激  
されて作ったりという、共  
同作業というよりも、関わ  
り合って何かを作り出すこ  
ともしています。

○小柳津 音楽では独  
唱、独奏、重唱、重奏の単元  
があります。地域の方に多  
く見ていただく場面では合  
唱や合奏が多くなるのでそ  
ういう印象を持たれがちで  
すが、どれも同じぐらいの  
比率で取り扱って、楽しさを  
味わうようにしています。

○田村 子どもに心は  
大事だと思えます。その育  
成を担っていることをどう  
考えていますか。

○田村 直接、いじめ対

4年生の時のお祝い「二  
分の一人式」や、まろに  
えホールで各学校の5年生  
が演奏する「連合音楽会」  
が心に残るらしく、「〇〇  
小の演奏がとても良かった。  
私たちがそういうふう  
にやりたい」とか、よく話  
題に出ます。

### 専科が担う 感性の育み

相手の気持ちを  
推し量れるような  
感性をもっとほし  
い

○宍戸 関わり合っ  
て学  
び、みんなで作り上げると  
いうことは、音楽にしても  
図工にしても大事なことで  
よく分かりました。

○司会 音楽、図工・美  
術の中での「関わり合い」と  
いうことが出てきました。  
子どもがはじめが問題に  
なっている中で、道徳の授  
業が教科化されます。「他  
人の気持ち」という、目に  
見えないものを推し量って  
理解するには、音楽や図  
工・美術などの教科で行わ  
れる「情操教育」がとても  
大事だと思えます。その育  
成を担っていることをどう  
考えていますか。

○田村 直接、いじめ対

策ということではありませ  
んが、歌の場合はみんなの  
気持ちを聞きながら、一つ  
にまとめることを考え  
ます。いろいろなパートを  
合わせていく時にはそれぞ  
れの役割を話し合い演奏の  
仕方を工夫させたり、心を  
揺り動かすような歌詞があ  
れば、その意味を子どもた  
ちと掘り下げていったりし  
ます。それが自然と互いに  
思いやる気持ちにつなが  
っていると思えます。

○小柳津 周りを見て、  
誰かが出過ぎないようにマ  
イナスの状態にもっていく  
のではなく、最終的にすこ  
く良いプラスのもののでき  
るにはどうしたら良いの  
か。みんなが光輝くにはど  
うしたら良いのかなとい  
う、常にポジティブを考え  
させるようにしています。

○石川 加藤先生も言わ  
れていましたが、特に、小  
学生の時は、常に「心地よ  
いもの」「きれいなもの」を  
見たり、作ったりしてい  
くことで、自然とそういう気  
持ちになってくるのではな  
いでしょうか。

他の教科の授業があまり  
好きでなくても図工室に  
来て楽しく活動しているの  
を見ると、図工の授業が子  
どもの心の安定につなが  
っていると思えます。

○宍戸 加藤先生や石川  
先生から、「良いもの、美  
しいものになるべく触れさせ  
る」という話が出ました。し  
かし、授業の中で「良いも  
の」「美しいもの」を誰がど  
う判断するのか、その基準  
は大変難しいと思います。

（3面に続く）